

【やまぐちスポーツ医・科学サポートセンター】

YMS NETWORK

アスリートインタビュー ～プロボートレーサー 出穂和鼓選手～

いずほわこ

全国最年少16歳 ボートレーサーデビュー

11月13日(水) ボートレース徳山

YAMAGUCHI ジュニアアスリートアカデミー修了生の出穂和鼓選手(12期生)が全国最年少ボートレーサーとしてデビューしました。出穂選手は中学1年生からアカデミー生となり、身体能力開発プログラムやウインドサーフィンに取り組みました。

小学5年生の時にボート選手と相乗りする「ペアボート」を体験したことをきっかけにボートの世界に魅了され、ボートレーサーへの夢を追いかけてきた彼女。夢を叶えた出穂選手にアカデミーでの思い出やボートレーサーまでの道のり、今後の展望を伺いました。



—— 出穂選手がYAMAGUCHI ジュニアアスリートアカデミーの選考会を受けようと思ったきっかけを教えてください。

出穂 小学6年生の時に学校で配られたアカデミー選考会のチラシを見て、体育館で行うトレーニング(身体能力開発プログラム)とウインドサーフィンがボートのためになるな、役立つなとピンときて選考会を受けました。当時からボートレーサーになりたいと思っていたので、体幹が鍛えられるトレーニングや海に出るウインドサーフィンをやっておこうって思っていました。



身体能力開発プログラムでのトレーニングに励む出穂選手(左)

—— 多くのアカデミー生が小学4・5年生からアカデミーに入校してしましますが、出穂選手は中学1年生からアカデミーの活動をスタートさせました。身体能力プログラムのトレーニングもセーリングも経験値が違うから周りに比べてできないこともあったと思います。当時の心境を覚えていますか？

出穂 やっぱりちょっと悔しかったですね。でも、人より倍、努力すればその分できるようになると思っていたし、負荷もしっかりかけてやっていました。当時、指導してくださっていた山田先生のごことが大好きだったので、山田先生に褒められたくて頑張っていたところも大きかったですね。心の支えは山田先生の存在とボートレーサーになるためだ！という思いでした。

—— アカデミーで思い出に残っていることはありますか？

出穂 全てが思い出です。本当に楽しかったので。強いて言えば、ウインドサーフィンの練習で強風の時に海に出たことですね。強風が好きで、スピードが出るのが楽しくて(笑)。できる、できないとかじゃなくて、とにかくあのスピード感がたまらなくて。怖さはないです。冬の海の上は死ぬかと思うくらい寒かったんですけど、冬の方が風が強いので、ウインドに乗りたくて乗りたくて仕方なかったです。





ウインドサーフィンに乗る中学3年の出穂選手（右）

——アカデミー修了式で「私はポートルーサーになります！」と言っていたのは印象的だったんです。高校に行かずにポートルーサーになる、ポートルーサーの養成所に行くとしたのはいつ頃ですか？その時の家族や学校の先生の反応はどうでしたか？

出穂 中学生の頃から「高校には行かない」と家族や友達に言っていたんです。進路をちゃんと決めたのは中学3年生の時ですね。中学3年生の11月に養成所の試験を受けて落ちちゃったんです。それから高校受験をするかどうかを家族で話し合っ、行かないって決めました。両親は自分で選んだ道だからいいんじゃないって背中を押してくれました。意外に学校の先生も応援してくださって。高校には行った方がいいんじゃないって言われるかと思ってはいたんですけど、全然そんなことはなくて、中2であった進路相談の時もボートの話をしたら、和鼓さんが頑張るなら応援するよって言っていただいて、ちょっと意外でした(笑)。

——一度、ポートルーサー養成所の試験を失敗したとお話がありましたが、その時の心境は？

出穂 私、本当に受かるとしか思ってなくて。受かる自信しかなかったんですよ。でも、落ちちゃって。信じられないというか、落ち込んだというか。両親や友達にも励ましてもらって、吹っ切れて、次、頑張ろうって思えるようになりました。

——出穂選手のアカデミー受験やポートルーサーになることなど、ご両親は出穂選手の意志をすごく尊重して、全力で応援している印象を受けるのですが、どんなご両親・ご家族ですか？

出穂 出穂家は自由です。でも、ちゃんとするところはちゃんとしていて、いけないところはいけないと言ってくれます。自分のやりたいことはやっていいよって。でもそのかわり、自分で責任もって最後までやりなさいって感じです。母とは何でも話せる友達みたいな関係です。私のポジティブなところは本当に母譲りですね。そのまま遺伝です(笑)。父は言ったことを最後までやりとおす人です。

——ポートルーサー養成所に入るための試験はどんなことをするのですか？受験対策はどうしていましたか？

出穂 一次試験は英語以外の学科と体力試験でした。高校入試レベルってあるんですけど、かなり難しいって言われています。体力試験は握力や背筋などの基礎体力測定でした。二次試験は、実際に福岡の養成所に行って2泊3日で試験があったんです。ほぼ体力試験です。長距離走もあったりして。あとはボートに乗る適性試験とか。三次試験は面接です。二次の合格発表は最終日に試験が終わって、その場で合格発表があって、めちゃくちゃ緊張しました。試験よりも合格発表の方がドキドキでした。順番に合格の人の番号が呼ばれて、自分の番号が呼ばれたら「よっしゃー！」って。でもその場ではできる雰囲気じゃなかったんで、内心めちゃくちゃガッツポーズでしたね。本当に嬉しくて。

受験対策は家で勉強と、スポーツ交流村にトレーニングをしに来ていました。交流村には週2・3回、自転車に乗って通っていました。今考えるとすごい距離ありますよね(笑)。(片道10km以上)

——試験は緊張しましたか？緊張をほぐす方法や平常心を保つために自分なりの対策があれば教えてください。

出穂 試験はそれほど緊張しなかったですね。三次試験の面接は緊張しましたが、話し出せば落ち着いてくるというか。

緊張をとくために、深呼吸をして、何にも考えないようにしています。周りの音を消して集中したら緊張がなくなります。養成所に入る前は緊張しいだったんですけど、養成所でメンタルトレーニングの授業があって、そこで色々な方法を教えてもらったんです。それで自分で音を消す方法が習得できました。これは今後もいかせるなと思っています。けど、レース前、ボートに乗る前はフライング怖いとか色々思うんですけど、エンジンをかけた瞬間、緊張が止まるんです。エンジン音を聞いたら「いくしかない！」って気持ちが切り替わるというか、スイッチが入るんですよ。



11/13～18に開催された中日スポーツ杯争奪戦にて
(写真：出穂選手提供)

——メンタルトレーニングの他に養成所の訓練はどんなことがありましたか？思い出に残っていることは何ですか？

出穂 養成所では一小隊・二小队に分かれていて、半期前に入っている先輩が一小隊で、入ったばかりの人たちが二小队なんですけど、二小队の頃は本当に基礎。学科が多かったです。ボートに乗るのもトコトコトコって。一小隊にあがったら、平日はずっとボートの操縦です。整備を半日入れたりしながら、実践中心でした。

私たちの代から現地訓練に行かせてもらえたんですけど、愛知県の碧南訓練所とか、芦屋ボートレース場に行ったのが思い出に残っています。実際にボートレース場でボートを走らせて、めちゃくちゃ楽しかったです。観客席があるだけで、「うわぁ！」って。全然景色が違うんですよ。養成所には観客席がないので。

訓練じゃない思い出だと、自由時間に食堂の部屋を真っ暗にしてテレビの音楽番組をボリュームマックスの爆音でみんなで聞いたことですね。スマホもネット環境もないので、楽しみがテレビしかないんです。音楽、めっちゃ詳しくなりましたよ（笑）。

——難関の養成所の試験にクリアできた要因は何だと思いますか？

出穂 地道な勉強ですかね。ひたすら学科の勉強です。毎日午前中はずっと勉強していました。養成所に入るための参考書とかはないので、高校入試の過去問を解いていました。養成所に入ってからでも学科が多くて、とにかくやるしかなかったです。わかんないところがあれば、いろんな方に聞いて教えていました。本当に同期にはお世話になりました。

——親元を離れて、1年間養成所に入って、心がめげなかったですか？

出穂 入所してすぐが一番ピークでしたね。寂しいし、慣れてないし、教官は怖いし…。養成所に入ったら帰省できるのはお盆とお正月の2回だけなんです。電話も公衆電話から3分しかできなかったの、母とは手紙でやりとりをしていました。でも、段々慣れていって、最後の4カ月は本当に楽しかったです。ボートにもバンバン乗れたんで！

——養成所の試験や訓練でアカデミーでの活動は役に立っていますか？

出穂 もちろん役に立っています。ウインドサーフィンで身につけた風を読む力だったり、身体能力のトレーニングだったり、アカデミーでやってきたことは役立っています。あとは、アカデミーで学校以外の人たちと交流できたことも良かったなと思っています。

——11月にいよいよデビューです。今の心境を教えてください。

出穂 早く乗りたいです！本当のレースを早くしてみたいですね。お客さんが実際に入って、本当のレースを体感したいです。緊張もありながら、ワクワクもありながら、楽しみにしています。本当にたくさんの方に応援してもらっているので。会場に飾る横断幕も地域の方が作ってくださって、本当にありがたいです。



横断幕と一緒に（写真：出穂選手提供）

——どんなレーサーになりたいですか？

出穂 たくさんのお客様に楽しんでもらえるレースができる選手になりたいです。これまで選手を応援する立場でレースを見ていて、カッコイイと思う選手は面白いレースをするんです。攻めた入りをしたり、ボートレースは水上の格闘技って言われるほどバチバチの戦いなんです。私が今見て、面白って思えるレースがしたいです。

——最後に、後輩アカデミーや夢・目標に向かって頑張っているジュニアアスリートたちにメッセージをお願いします。

出穂 あきらめなかったら、夢は叶うと思うので、努力し続けてほしいです。自分の夢にブレずに頑張りたいと思います。私もこれから頑張ります！



レース前の出穂選手（写真：出穂選手提供）